研究ノート

「Surface」シリーズ
（－工芸からのアプローチ－　現代造形７人展）出品作品から

池　田　晶　一
日本福祉大学　情報社会科学部

The series surface of works with ceramics. from "-Approach from the crafts- A modern sculpture exhibition by seven artists"

Shoichi Ikeda
Faculty of Social and Information Sciences, Nihon Fukushi University

Keywords: 現代造形，工芸，セラミック，タイル，surface

1．はじめに

「Surface」は，私が2000年からシリーズとして取り組んでいるセラミック（陶磁器）の作品群である．今回は2001年８月15日～20日に松坂屋本店 南館６階美術画廊において開催された「－工芸からのアプローチ－現代造形７人展」に出品した作品について述べる．

本展には，「cool <blue & red>・white <light & shade>・warm <red & yellow>」，「light in the dark・shade in the light」の２種類の作品群から11点の作品を出品した．各種類の作品は大きさに大小あるが，基になったパーツは，同一の手法を用いたものである．ここでは２種の作品の技法について述べてゆきたい．

2．作品について

○「cool <blue & red>・white <light & shade>・warm <red & yellow>」

この作品の素材は，陶磁器である．成形方法は，まず石膏でタイルの原型を作る．そして原型から石膏型を作り，圧力泥しょう鋳込み（クリーム状の粘土に圧力をかけて，石膏型に流し込む技法）によって成形する．成形の後乾燥を経て素焼き（750℃で焼成）をし，施釉（釉薬をかける）する．「cool <blue & red>」「white <light & shade>」「warm <red & yellow>」の作品には，それぞれ「cool」にはブルーとピンク，「warm」にはピンクとイエローの２色の釉薬を異なる角度からコンプレッサーで吹き付ける．「white」には，ホワイト１色の釉薬を吹き付ける．その後に，釉薬の上にアルミナを吹きつける．このアルミナを吹き付けることによって，釉薬の表面が艶のある状態から，角砂糖の表面のようにザラザラとした質感になる．施釉の後，1250℃で，酸化焔（完全燃焼）により焼成する．この作品の特徴は，色の違う釉薬を角度を変えて施しているため，タイルの表面が見る角度によって色が違って見えることである．タイルを９枚使った作品では，各タイルの向きを90度ずつ度回転させて張り合わせている．そのために一見，色の違うタイルが並んでいるように見える．また，作品を正面，右，左から見ると色が変化してゆく様子を見ることが出来る．

また，作品表面はアルミナによって非常に細かな凹凸ができ，表面に光が当たると，おぼろげに発光している様にも見える．非常にデリケートな光をそこに見ることが出来る．

次に作品の意図であるが，上記で述べたように，見る角度による色彩変化の面白さを狙った所にある．色については，空をイメージした．「cool」は青空，「whi-te」は雲，「warm」は夕焼けの空をイメージしたものである．空の色というものは，一時として同じ色彩で留まることはない．うつろいゆくその色を，不確かな色彩表面を作ることで表現したいと考えた．

○「light in the dark・shade in the light」

この作品も，素焼きまでは上記の作品と同じ工程である．施釉については，「light in the dark」は，金彩釉を，「shade in the light」については，真珠ラスター釉を吹き付ける．施釉の後は，1250℃で，酸化焔により焼成する．この作品の特徴は，施してある釉薬にある．金彩釉は，釉薬の表面に金色の結晶が現れること，真珠ラスター釉は，釉薬の表面が水の上の油のように虹色に反射することである．この２色の釉薬は，それぞれ窯変釉とも呼ばれ，窯の温度や炎の状態，また釉薬の厚みによって様々にその表情が変わる．言い換えれば，色の表れ方が非常に不安定な釉薬でもある．この２色の釉薬を細かなレリーフの表面に施すことにより，変化がより多様になる．制作過程では，その変化の想像がつかず，何度も焼き直しをすることになったが，面白い色彩と陰影の変化を作ることが出来た．

この作品の意図としては，私なりの日本の色を考えた．また，「陰と陽」を焼き物の表面に現れる色彩で彩ることを考えた．そして，それぞれを作品名からも分かるように，２つの要素を対比させて表した．光の中の影，闇の中の光，相反するものがその中に同居する．虚ろであるが確かな，確かな様でいて虚ろな，そのようなものを表現したいと考えた．

3．展覧会について

－工芸からのアプローチ－現代造形７人展

展覧会についてまとめておく．本展は，松坂屋本店美術画廊の企画で開催された．副題にもあるように，工芸素材を用いた現代造形作家７人によるものである．私が用いた陶磁器以外の素材では，漆，金属(鍛金・鋳金)である．個々の詳細については触れないが，それぞれの出品者は，工芸素材の造形に対する可能性を模索しながら表現している．約２年をかけ，出品者と美術画廊のスタッフで計画し進めてきたものである．従来のそれぞれの素材が伝統的に表してきたものから，新たな可能性が見て取れる興味深い展覧会に成ったのではないだろうか．

4．最後に

「Surface」シリーズについて，現在も進行形で作品を作り続けている．平面的な展開から立体的な表現も含めて今後進めて行きたい．

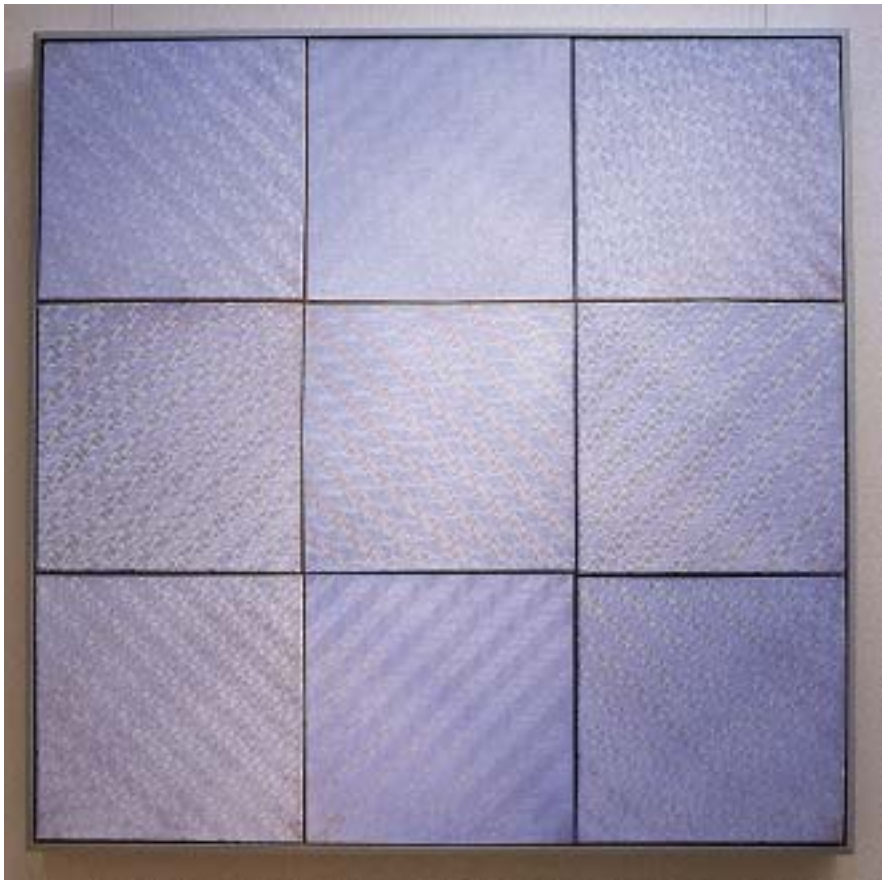
現在，作品を通して私の目指している表現は，本文でも少し触れたが，「陰と陽」や「ネガとポジ」等の相反するものの同居，また，日本人としての美的感覚，物事の奥行きの様なものである．

作品とは，おそらく最終形は無いだろうが，私が物事を見つめている方向性として作品に記録してゆきたいと思う．

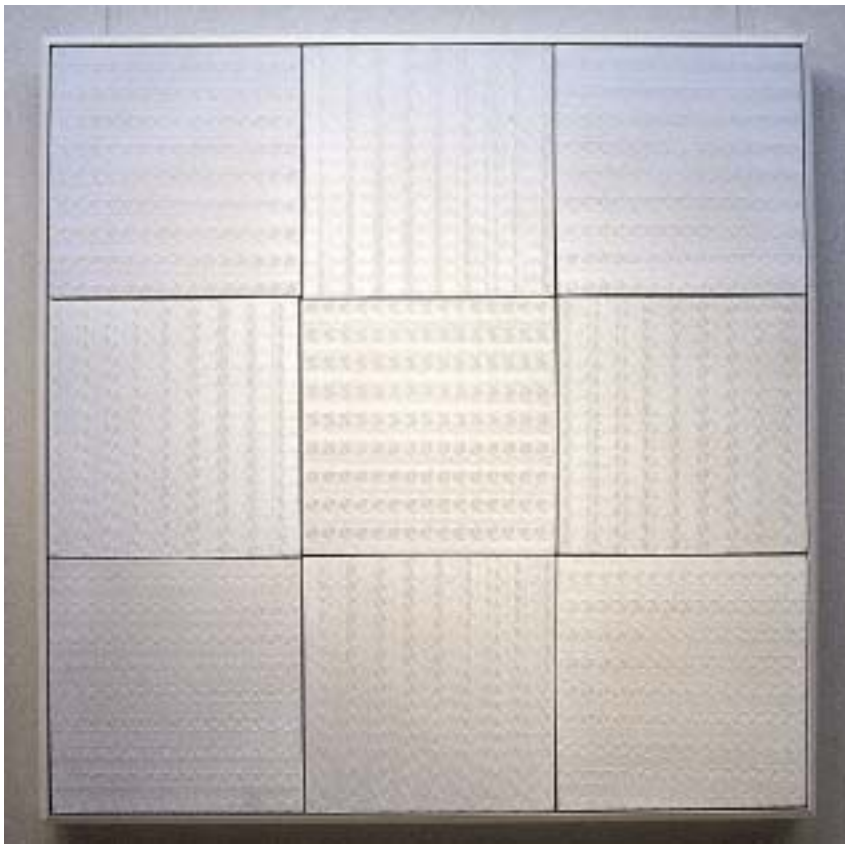
5．作品データ

１．cool <blue & red>　(w:1005×h:1005㎜)
２．white <light & shade>　(w:1005×h:1005㎜)
３．warm <red & yellow>　(w:1005×h:1005㎜)
４．shade in the light　(w:1650×h:680㎜)
５．light in the dark　(w:1650×h:680㎜)
６．cool <blue & red>　(w:355×h:355㎜)
７．white <light & shade>　(w:355×h:355㎜)
８．warm <red & yellow>　(w:355×h:355㎜)
９．light in the dark　(w:355×h:355㎜)
10．shade in the light　(w:355×h:355㎜)
11．light in the dark　(w:680×h:680㎜)　＊写真なし

撮影　池田晶一



１．cool〈blue & red〉
w:1005×h:1005㎜



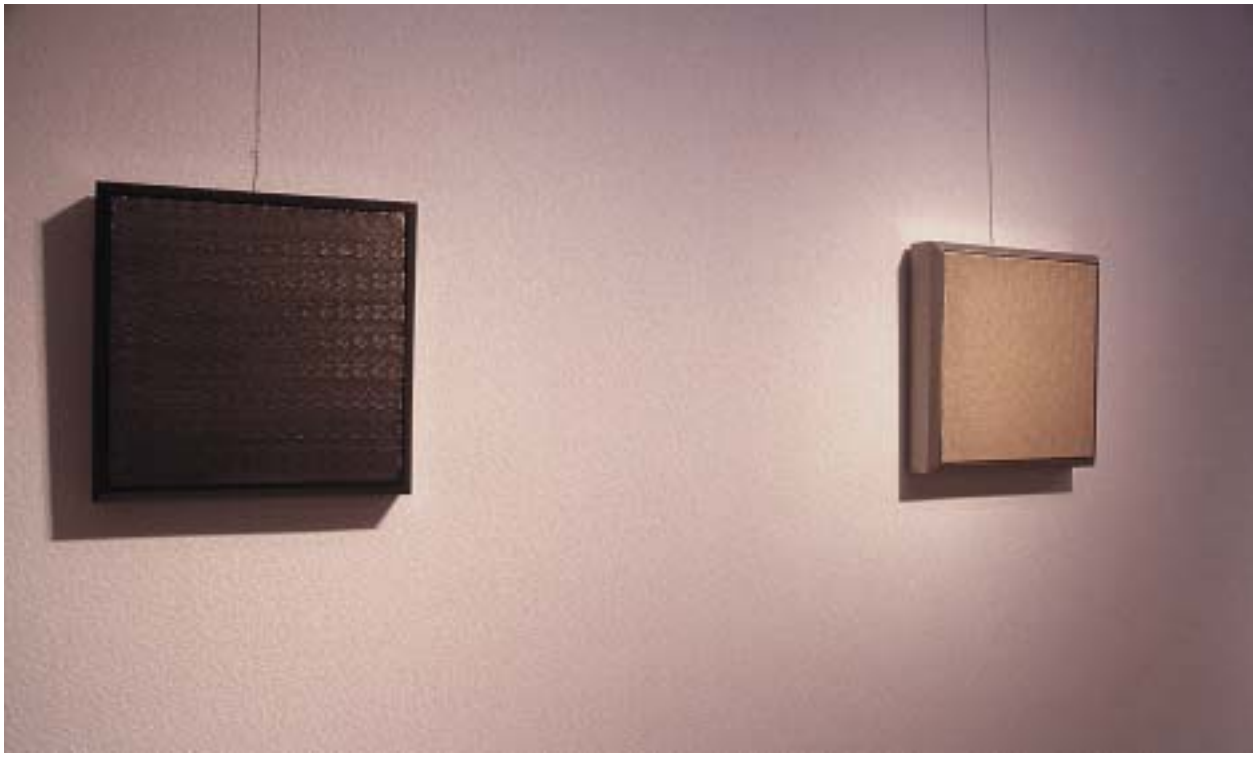
２．white〈light & shade〉
w:1005×h:1005㎜

３．warm〈red & yellow〉
w:1005×h:1005㎜

４．shade in the light　　w:1650×h:680㎜

５．light in the dark　　w:1650×h:680㎜

６．cool〈blue & red〉　７．white〈light & shade〉　８．warm〈red & yellow〉
各 w:355× :355㎜



９．light in the dark　10．shade in the light
各 w:355× :355㎜